

第1回 KOCHI 未来会議 開催レポート

課題先進地域・高知から 未来を考える

10月12日(土)

- 15:30 開会
15:35-16:25 KOCHI 未来会議趣旨説明
16:30-17:30 基調講演「AI×地方創生」
松尾 豊 教授(東京大学大学院
工学系研究科人工物工学研究センター)
17:30-18:00 基調講演者とのディスカッション
18:00 閉会

10月13日(日)

- 9:00 開会
9:05-10:20 リレートークとパネルディスカッション
「とがった未来をつくる～情熱と創造の共鳴～」
- 小安 美和 氏(株)Will Lab 代表取締役
- 森 夕乃 氏(慶應義塾大学総合政策学部1年生)
- 小川 優太 氏(高知大学地域協働学部4年生)
- 矢座 孟之進 氏(ハーバード大学3年生)
- 橋田 有紗 氏(高知市環境・新エネルギー・環境政策課)
- 小澤 杏子 氏(早稲田大学社会科学部4年生)
10:30-10:45 研究会の設置と活動報告
10:45-11:50 グループワーク
11:50 ラップアップ
12:00 閉会
午後 エクスカーション(高知県本山町)

〒780-8073

高知県高知市朝倉本町2丁目17-47

高知大学 研究国際部 地域連携課 産学官民連携推進係

TEL : 088-844-8481

Mail : kt04@kochi-u.ac.jp

編集責任者 : 吉用武史



10月12日（土）

2024年10月12日（土）から13日（日）、高知大学主催による **KOCHI 未来会議**を開催しました。高知共済会館を会場とし、**基調講演に東京大学大学院工学系研究科人工物工学研究センターの松尾豊教授**、そしてリレートークに**豪華なゲストスピーカー**を多数お招きしました。県内外の産学官の多様な立場の皆様を参加者として、**総勢約100名の大規模なイベント**となりました。

そのイベント詳細を報告します。

KOCHI 未来会議趣旨説明

まず KOCHI 未来会議の設立趣旨について、冒頭に**高知大学学長の受田浩之**より紹介しました。本会議は**人口減少という深刻な課題に直面する課題先進地域・高知**から、地域の強みとグローバルな視点を融合させ、様々な視点から課題解決を目指す取り組みを議論することで**高知の未来を描き**、やがて同様の課題に直面する**日本全体**、さらには**世界の未来をデザインする場**とすることが述べられました。会議名称は、課題を解決に導く上で必要な**知識（Knowledge）**を集め、高知のみならず地域毎の**独自性（Originality）**を尊重し、**創造力（Creativity）**を駆使しながら、人が織り成す**共感や人間味（Humanity）**を基軸にした**イノベティブ（Innovation）**な議論を未来へ向けて展開することを目指し、**それぞれの頭文字を取って KOCHI 未来会議と名付けられました。**

また、趣旨に対して高知県外からの参加者であり、KOCHI 未来会議の設立に向けた準備を共に進めていただいた**(株)たすきづな代表取締役の柳原直人氏**と**横河電機(株)未来共創イニシアチブ プロジェクトリーダーの玉木伸之氏**から、KOCHI 未来会議への期待を述べていただきました。



基調講演「AI×地方創生」

松尾 豊 教授（東京大学大学院工学系研究科人工物工学研究センター）

AI 技術は社会の様々な課題解決に重要な役割を果たすと考えられており、**地方創生**においてもまた同様です。特に**生成 AI** は近年著しい発展を遂げ、私たちの生活のあらゆるシーンを支える存在になりつつあります。基調講演では、**その歴史と最新動向、リスクや懸念、多様な場面での使い方とそのための環境整備**について、国内の AI 研究の第一人者である東京大学大学院工学系研究科人工物工学研究センターの**松尾豊教授**に述べていただきました。



基調講演者とのディスカッション

講演後、松尾教授には引き続き登壇いただき、受田学長、柳原さん、玉木さんと共に講演内容に対するディスカッションを行いました。高知大学理事である堀見和道の進行のもと、イノベーション創発におけるAIの可能性や暗黙知の形式知化、特に**地方には多様な文化的背景から暗黙知が多く潜在していること**、また、**人間の感覚・知覚に対するAIの適用可能性や限界**にも触れられ、**私達がAIと共に歩むまだ見ぬ未来の姿が垣間見えたセッション**でした。



以上で初日のプログラムを終了しましたが、有志による懇親会に場を移して、松尾教授にも引き続きご参加いただき、意見交換が行われました。プログラム中では参加者の皆様による意見交換の時間が十分では無かったことから、大いに盛り上がりつつ、初日が締めくくられました。



10月13日（日）

リレートーク

「とがった未来をつくる～情熱と創造の共鳴～」

- 小安 美和 氏 （(株)Will Lab 代表取締役）
- 森 夕乃 氏 （慶應義塾大学総合政策学部 1 年生）
- 小川 優太 氏 （高知大学地域協働学部 4 年生）
- 矢座 孟之進 氏 （ハーバード大学 3 年生）
- 橋田 有紗 氏 （高知市環境部新エネルギー・環境政策課）
- 小澤 杏子 氏 （早稲田大学社会科学部 4 年生）

2 日目最初のプログラムであるリレートークでは、県内外で活躍する若者・女性から各活動をプレゼンいただき、これまでの産学官による同質性・類似性の高い議論から参加者の思考を脱却することを企図しました。プレゼンターには、活動に対する内面的なエンジンは何か、その原体験となったものはあるか等を共通の問いとしました。

「日本のジェンダーギャップ解消に向けて」 小安 美和 氏

トップバッターの小安さんは、ジェンダーレンズをかけて公平公正な社会になっているか常に見ることの重要性に触れられ、一人ひとりがどうありたいかが実現できる社会を目指した活動を述べていただきました。またその中で、ジェンダーギャップの日本と他国の比較、高知県の位置づけをご紹介いただき、高知県は経済分野では格差は小さいものの政治や意思決定に係る場への女性参画には課題があることをご指摘いただきました。



「電力生産圏出身の大学生が考える原子力に関わる問題と今後」 森 夕乃 氏

二人目の森さんは、日本一原子力発電所が立地している福井県の出身であり、高校時代からエネルギー等の探究学習をした経験から、大学においても学際的視点で研究されています。使用済み核燃料の最終処分方法としての地層処分など、決めなければならない問題であるにも関わらず認知度が低いことに疑問を感じ、主に高校生へのアンケート調査と統計解析および大使館へのインタビューなど行ったこと。また、廃炉作業中の原子力発電所から出る再利用可能なクリアランス資源の活用にも触れられ、最終的に社会問題に対して対話できる環境を作りたいことを語っていただきました。



「人々が笑顔になる瞬間を創造したい」 小川 優太 氏

三人目は小川さん。土佐学生よさこい大会の取組を通じた地域社会の持続可能性について発表いただきました。よさこい祭りで感じた後継者不足問題。文化的・経済的価値は大きくとも持続可能ではない現状を何とかしたいとの想いや、人材不足に対して地域間のパイの奪い合いではなく、人口が減ろうとも稼げる地域を作り出したい、誰かの幸福のために誰かが不幸になってはならない、など強い想いを語っていただきました。



「本質を表現する」 矢座 孟之進 氏

矢座さんが四人目。高校時代に原発のドキュメンタリーを作ったことをきっかけに映画作りを始め、哲学と映画のダブルメジャーが可能なハーバード大学に入学されていること、現在は初の長編映画『火の玉を見た』の制作に挑戦していることを述べられました。火の玉とはメタフォルカルな意味で“本質”。映画は個人への働きかけが強い媒体であることから、ともすれば窮屈さを感じているかもしれない日本社会であるが、映画を通じて一人一人が本質を表現できる社会にしたいことを語っていただきました。



「高知の未来を関係人口で共創する」 橋田 有紗 氏

五人目の橋田さん。高知県出身ながら高校2年頃まで高知県が嫌いで大学では県外に出たかったが、当時の担任教員からの助言により高知で自分に出来ることを考える中で、高知の魅力に気づき、活性化に取り組みたい想いが芽生えた経験を紹介いただきました。大学生時代に地域活動に取り組む学生団体を結成、高知大学の認証制度「地方創生推進士」の取得、卒業後は高知市に就職、現在は鏡川の自然や人と鏡川の繋がりを守り育てるため、鏡川流域関係人口の創出に取り組んでいることを紹介いただきました。



「日本のエネルギー問題に向き合う」 小澤 杏子 氏

ラストは小澤さん。株式会社丸井グループの最年少アドバイザーや株式会社ユージェナの初代 CFO（Chief Future Officer）の歴任、FORBES の 30 UNDER 30 Japan 2021（世界を変える 30 歳未満）への選出など紹介いただきました。日本のエネルギー問題に関心があり、避けては通れない現状のなか、これからは自分が主体的に現場に入って変えていきたいこと、また、日本の若者が自分たちの将来に希望を持てる未来を創りたいことを語っていただきました。



リレートーク登壇者とのパネルディスカッション

各プレゼンターをパネリスト、そして小安さんをファシリテーターとして、活動内容の背景や想いの根源について深堀してディスカッションいただきました。

問い：なぜ一歩踏み出せたのか？

「人に恵まれていた」「身の回りの小さな一歩から始めることを心掛けた」「ロールモデルがいた」「やりたいと思ったことはやらないと気が済まない性分だった」「周りの人達の優しさがあったから」

問い：躊躇したことはあったか？

「公平公正が必要な立場上の躊躇」「目的達成がイメージできるかどうか」「様々なステークホルダー間の利害調整が必要な状況」「作品作りにおいては言葉の一つ一つなど躊躇しかしていない」「人によって感じ方の違う問題をどう伝えるか」

問い：周囲と対話しながら進めていく中で、多くの人を動かすときの成功体験は？

「理屈ではなく熱意と気持ち」「口だけでなく行動で示す」



各プレゼンターを始め、多くの皆様は解決できない社会課題に対してモヤモヤした気持ちを抱いている、その気持ちに蓋をするのではなく常に持ち歩き、こういった場で共有しながら解決のための対話をするのが大事であることを小安さんに述べていただき、パネルディスカッションが締め括られました。

研究会の設置と活動報告

KOCHI 未来会議の具体的な活動として、先行的に **GNT（グローバル・ニッチ・トップ）企業研究会の設置**が検討されていました。GNT 企業とは、ニッチな製品分野ではあるが、国際市場で競争優位を獲得している優良企業のことを指し、**高知県は GNT 企業の割合が高い地域**とされています。そこで、**課題先進地域の高知県にて企業が生き残っていくためにどうすればいいのか？**との問いを立て、**GNT 企業が成立するメカニズムの理解と高知県固有の要素の切り分け**、さらに**高知県で GNT 企業を継続的に創出するにはどうすればいいか**を探ることをテーマとする研究会の設立が検討され、10月13日をもって設立が宣言されました。

会長は高知大学人文社会科学部の**的場竜一**講師が担います。これまでの GNT 企業の調査状況を的場講師からご報告いただくと共に、高知県固有の要素の仮説も紹介されました。研究会の概要については柳原さんからご紹介され、今後の研究会活動への参加の案内が説明されました。



グループワーク

参加者同士によるディスカッションのためグループワークを行いました。5つのテーマの中から事前にテーマを選択した参加者同士が同じテーブルに集いました。

- 国際連携
- 食
- AI・データサイエンス
- 観光
- ジェンダーギャップ

リレートーク登壇者も一部加わり、45分という短い時間でしたが活発な議論が各テーブルで展開されていました。その中から3グループにはディスカッション内容を発表いただきました。



ラップアップ

初日と2日目の総まとめとして、**受田学長によるラップアップ**を行いました。初日の冒頭に受田学長が述べた KOCHI 未来会議の設立の趣旨の中で、**地域の中核大学が担うべき「交流の拠点」機能を更に強化・発展させたい**という言葉がありました。**この2日間に繰り広げられた議論、そして各参加者の情熱の共有、それらを見て目指す「交流の拠点」を構築できることを確信した**と語りました。今回の会議で強く感じられたこととして**「多様性」**がありました。今回、場所や世代を超えてこの場に集まり議論されたこと、**時空間を超えた多様な議論の往還こそ、交流の拠点の価値ある機能となり得るのではないかと**感じられました。今後の本会議については、関係者との合意形成はこれからだが、**継続することが未来を切り拓く**と信じているので、この場を引き続き高知大学主催のもと、第2回以降も企画を続けていくことが表明され、総括されました。



エクスカージョン

KOCHI 未来会議の閉会后、約 30 名の希望者によるエクスカージョンを実施しました。地域の持続可能性を考える上での参考事例として、高知県本山町で進めようとしている**本山町中心市街地活性化事業**について、実際にまち歩きしながら説明を受けました。

本山町は人口 3,151 人（2024 年 8 月 31 日現在）、世帯数は、1,776 世帯（同日現在）で、**急速な人口減少・少子高齢化が進む地域**です。他方、高知県北部（嶺北地域）における産業・文化の中心地として長い歴史を持ち、**高知県内では唯一「日本で最も美しい村」連合に加盟**しており、2019 年には**「アウトドアヴィレッジもとやま」**を開業。アウトドア観光の推進や市街地活性化など、積極的にまちづくりに取り組んでいます。近年は高知大学との連携の熟度が高まり、**中心市街地活性化事業においてふるさと納税を活用した大学地域共創プログラムの構築や、まちづくり組織の創設等に高知大学地域コーディネーター（UBC）の梶英樹講師が携わり、連携協定を締結して事業を共に進めています。**



まち歩きの後、創業 100 年以上続く高知屋旅館を会場に、中心市街地活性化事業について参加者との意見交換を行いました。意見交換では**本山町長の澤田和廣氏**や**政策企画課課長補佐の右城伸氏**、**本山町地域プロジェクトマネジャーの荒川彩氏**との質疑応答など、濃密な時間となりました。

